すずから通信 No.40

行徳野鳥観察舎友の会会報

1960.10

よみがえれ新浜――水質浄化と水鳥の誘致
トヨタ財団第４回研究コンクール「身近な環境をみつめよう」

本研究へ助成決定

――湿地回復の夢いよいよ実現化――

東　良一

今年の４月から予備研究として始めた水車による水質浄化実験と、これに続く保護区本土の湿地造成を目的とする本研究の計画が大きく評価され、トヨタ財団から今後２年間にわたり５００万円の助成金を受けられることになりました。友の会ではこの助成金を使って、保護区本土に溜池を作り、水車で酸素をふき込み浄化能力を高めた丸浜川の水をポンプでその池に汲み上げ、そこからさらに周囲の浅い池に水をひいて湿地を作っていく考えです。

水鳥を誘致するために人間の手で自然を改良する……日本では初の試みでしょう。それだけにその効果も未知数のところはありますが、予備研究からは、酸素を含んだ丸浜川の水を湿地の淡水源にすれば、ほぼ問題なく水鳥の餌になるものがかなり得られることなどがわかりました。湿地造成実験を行う本研究でその効果を１つ１つ確かめていくつもりです。

今、私たち友の会は、保護区内の湿地回復という長年の夢の実現に向けて大きな一歩を踏みだそうとしています。かつて世界有数の水鳥の楽園だったこの土地をどこまでよみがえらせることができるか、夢はどこまでも大きく広がりつきるところがありません。

水質調査、アンケート調査など予備調査ではいろいろな方々に御協力や御助言いただきました。これからの本研究にもどんどん参加していただきたいと思います。また、できるだけ多くの方々に、今、ここで、私達人間の手によって小さな自然が回復されようとしている、その様子を見守っていってほしいと思います。

なお、付録として予備調査研究報告書の抜粋を添付したので、詳細についてはこちらを参考にして下さい。

行徳の海面埋立を考える集い

日時：　１０月１８日（土）　午後６時３０分より
場所：　行徳公民館２階第２会議室
内容：　映画「首都の海」上映と講演
　　講演者：　風呂田利夫氏（東邦大学理学部講師・市川の海研究会代表）
参加費：　３００円
主催：市川２期埋立を考える会
　　連絡先：藤原寿和 [redacted]

鳥の国から

蓮尾　純子

ふーっ、やーっと終わり！トヨタ財団の研究コンクールへのレポート提出期限が９月１０日、その前、８月３０日に報告会。一応ざっとしたまとめは終わっていたものの、やっぱりちゃんとしたものを作っておきたいとよくばったばっかりに、まあともかくしんどかった！でも、何とか面白そうな結果が出てくれたし、発表会では他の団体の方たちがえらく面白がってくださったので、ほっとしました。それから約１週間、ぼーっとしてすごしています。

そんなこんなで、この夏は鳥さんの方はさっぱり。何か知らないけど、ヒナがあまり見られなかった。セイタカシギはちゃんと繁殖しましたが、バンのヒナがいない夏なんて初めてです。９月に入ってようやく若鳥が２羽、餌場の近くに出てきただけ。それに、ヨシゴイも、タマシギも、ヒクイナも、ぜーんぜんだめ。朗報は、淡水池で久々にオオバンの巣が見つかったことぐらいかしら。

７月末、長かった梅雨が明けて、夏のひざしがかっと照りつけたとたんに、原因不明の病気がひろがり、セイタカシギ少なくとも６羽、カルガモも何羽か死にました。普通は夏の終わりによくあるのですが、７月に発生したのは初めてです幸か不幸か、８月４日に台風１０号の大雨。病気はその後出ませんでした。

セミがほとんど聞かれなかったのも、この夏の特異現象。長梅雨のせい？

繁殖の方がふるわなかったのに対して渡りはきっちり　まあまあ　どうやらというところ。そう、種類によりけりですが、谷津干潟の１０分の１位かそれ以下の数は見られました。ご存じのことと思いますが、秋の渡りはたいてい７月中に始まります。初認日を挙げてみると、メダイチドリ（７．２０、９羽）、キョウジョシギ（７．２９、１羽）、アオアシシギ（７．１７、２羽）など。８月は渡りたけなわで、キアシシギは８月５日に２１４羽を数えました。アオアシシギ（８．３０、５１羽）、ソリハシシギ（８．３１、５７羽）、アオサギ（同日、８９羽）等も割合多い記録です。

９月に入ると冬鳥が続々到着。コガモ（９．６、１８羽）、オナガガモ（９．１１、１７羽）、ハシビロガモ（９．１３、５羽）、ヨシガモ（９．１６、１羽）、ヒドリガモ（９．１８、９羽）。１０日に３６羽見られたスズガモは、越夏組か到着組かよくわからず。

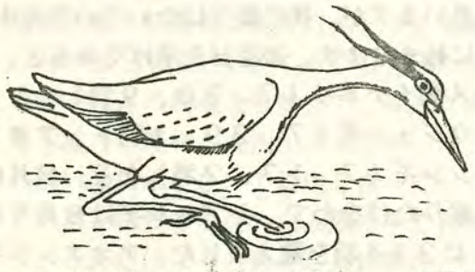
鳥さんたちが次々にふえてきたし、涼しくなってほっとしているのですが、海では今年も青潮発生。９月１５日、１８日は観察舎からも腐敗臭を感じました。秋の年中行事になってしまっては困るのです。本当に。アサリは大被害。“せせらぎ１号”を持って行って回したい位。

１８日、７日ぶりに顔を見せた青空のもと、アキアカネが飛んでいました。足止めされた渡り鳥たち、雨が上がったら一斉に旅立つかしら。

注目！　新装オープンの“ボニー行徳　（行徳駅前）、まっ白にぬりかえた外壁にツバメの巣がそのまま残されています。お店の方々の暖かい気持が伝わって、大感激。ちょっとまねのできないことではないでしょうか。ぜひご覧ください。（純）

野鳥紳士録

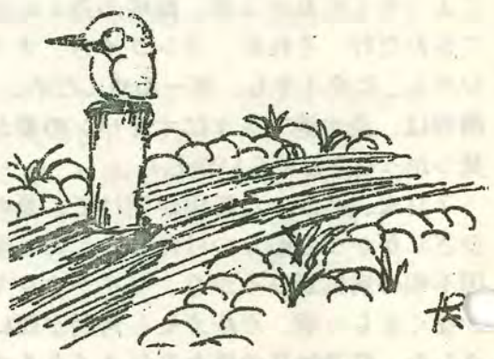
○アオサギ－八月の終り　過ぎ去る夏を惜しんで沈むのを拒み続ける夕日を浴び　水面を見つめて立つアオサギの群れ。水辺の哲学者たちは　潮風に吹かれて一体何を議論しているのでしょうか。



アオサギ　漢字では「蒼鷺」。「蒼」という字は　納屋に取り込んだ牧草や新穀の色　あせた青色を表しています。また　薄青の馬の毛並のことも「あをさぎ」といっていたようです。「あを」は上代では黒と白の中間的性質を持つ　広い範囲の色の名で　おもに青　緑　藍などを指していました。英名は「Ｇｒａｙ　Ｈｅｒｏｎ」英語には古い言いまわしで「ｋｎｏｗ　ａ　ｈａｗｋ　ｆｒｏｍ　ａ　ｈａｎｄｓａｗ」というのがあります。ｈａｎｄｓａｗとは「ノコギリ」のことではなく　実は古い仏語のｈｅｒｏｕｎｃｅｌから来たもので　「サギの若鳥」のことを指しています。つまり　「サギとタカの区別ができる」が転じて「判断力がある　常識がある」という意味になったわけです。学名はＡｒｄｅａ　ｃｉｎｅｒｅａ。属名のＡｒｄｅａはラテン語のａｒｄｅａ（サギ）からきています。種小名のｃｉｎｅｒｅａはラテン語のｃｉｎｉｓ（灰）からきていて「灰色の」という意味です。

アオサギ　ダイサギ　コサギ　ゴイサギ等のサギ類が一年を通して見られます。このうち　ダイサギ以下のものは以前は鴨場で沢山の個体が繁殖していましたが周辺に餌場の無くなった今　鴨場のサギ山は衰退の一途をたどっています。少しでも　以前の賑わいを取り戻すためにも本土内にもっともっと　淡水の池を作ることが必要です。

○カワセミ－高い空に鰯雲が広がり　保護区に黄色のセイタカアワダチソウの花が揺れる頃　ちらほらと冬鳥の姿が見られるようになります。水辺に棲むきれいな鳥として有名なカワセミも　保護区では冬鳥の仲間です。



カワセミ　漢字では「翡翠」。カワセミというのは「川瀬見」からきています。魚を狙って水辺にたたずむ　その姿からきているのでしょう。英名は「Ｃｏｍｍｏｎ　Ｋｉｎｇｆｉｓｈｅｒ」見事なダイビングで魚を獲るので　「漁師の王様」と呼ばれています。学名は「Ａｌｃｅｄｏ　ａｔｔｈｉｓ」。属名のＡｌｃｅｄｏはギリシア語のｈａｌｃｙｏｎからきています。ギリシア神話でハルキュオーネはケーユクスの妻で　二人はその幸福な家庭をゼウスとヘラーのそれと比較されました。神々はそれを怒って　ハルキュオーネをカワセミに　ケーユクスをアビに変じてしまいました。種小名のａｔｔｈｉｓは同じく　カワセミに変じたハルキュオーネを指しています。けれど何故ｈａｌｃｙｏｎがａｔｔｈｉｓとなったのかはわかりません。

保護区でカワセミを見るポイントは鴨場の前の水路です。但し　休日には釣人が出るため　早朝か夕方が良いでしょう。植え込みの蔭からじっと見守っていると鴨場の方の水蔭から対岸へ青い影がすっと飛ぶのが見られるでしょう　運が良ければ　すぐそばに飛んできてくれることもありますし　ダイビングを見せてくれることもあります。いつでも必ず見られるというわけでもありませんが　釣人がいても水路の奥の方で遠くなりますが　ちらっと姿を見るくらいならできることも多い場所です。

丸浜川がもっときれいになり　本土内にカワセミが営巣できるような環境が増えれば　もっと彼等を身近に感じることができるのにと思います。

―荒井　ハル―

8月25日　谷津干潟自然観察会　感想文

江戸川区　新田　吉子

友の会に入会して早いもので　一年になります。きっかけは　昨年の今頃　水鳥がさわがしく　川には魚が大量に死んでいましたので　どうしてかなァと　興味を持ったからです。自分の家の廻りをまず調べ　原因がわからないまま川づたいに　下流へと行きましたら観察舎にたどりつきました。

観察舎には自然を大切に守っている多くの方がいますので安心致しました。

鳥の種類がまだわかりませんが　自分の周りの野鳥を大切にと思い　観察し続けました。家の廻りには　小さな川や大きな川と　川や公園が多く野鳥が住むのにはとてもよい環境と思われますが　小さな川は　どぶ川でとても鳥が飲めるものではありません　大きな川の方は魚が住んでますが　ちょっと距離があります。

それでベランダに水を一年間おいておきましたら　スズメの親子が何組も増えたり　キジバト　ヒヨドリ　ウグイス　ツバメなど　朝早くから鳥の鳴声で目を覚ますのはとてもうれしいことです。

８月２５日　野津干潟の秋の渡り鳥の観察。前日よりハイキングに行くみたいにもう　わくわく。車中から外を見やると　ハスの花が今まっさかり　この花もだんだん見られなくなるのかと残念に思いました。

谷津では鳥の種類の多さにびっくり　魚やカニが多く　近くでは鳥が餌をついばみうれしそうに飛ぶ様子が見られ　自然の中に自分もスゥーと溶け込める　そんな環境は今なかなか見渡せません　自然の中の全てのものを　いつまでも　このままそっとしておいて　野鳥の住めるようにしておくべきだと思います。

行事案内

誰でも自由に参加できます。参加費無料。

☆定例新浜探鳥会（毎月第２日曜日）　　１０月１２日、１１月９日

集合：東西線行徳駅前　　午前１０時
解散：行徳野鳥観察舎　　午後３時頃
担当：東　良一[redacted]
持物：昼食、飲物、バス代（大人１９０円、子供１００円）、帽子

埋立工事も始まり、レンコンの取り入れも今年が最後になるそうです。それでもジョウビタキやツグミはいつもの通りやってくるに違いありません。２度と取りもどすことのできない貴重な自然が失われていく様を１人でも多くの方に見ておいて欲しいと思います。

☆定例園内観察会（毎月第１・３日曜日）１０月５日・１９日、１１月２日・１６日

集合：行徳野鳥観察舎前　午後１時半
解散：　　〃　　午後４時頃
担当：観察舎　蓮尾、協賛　友の会

よく晴れた秋の休日、観察舎前の芝生でお弁当を広げ、午後からは保護区内の観察路をひとめぐり、というコースはいかがでしょう。鳥、草、虫、そして空の雲などが「秋」を語りかけてくれるはずです。

☆夕暮観察会　　１０月２６日（日）、１１月２３日（日）

集合：行徳野鳥観察舎　　午後４時半
解散：　　〃　　午後６時頃
担当：観察舎　蓮尾

陽も沈み、空が東の方からゆっくりと夜の衣をまといはじめる頃、保護区の中をひと歩きしながら、ネグラへ帰る鳥を観察します。風が冷たくなりました。上着を１枚お持ち下さい。

☆丸浜バードリバーを調べよう（毎月第４日曜日）　１０月２６日、１１月２３日

集合：行徳野鳥観察舎　　午後１時
解散：　　〃　　午後５時頃
担当：東　良一[redacted]、矢野　耕一
持物：長ぐつ、タオル、ビニール手袋

新聞やＴＶですっかり有名に（？）なった水車実験。根気のいる調査ですが、興味をお持ちの方、１度のぞきにきてみて下さい。

[redacted]

編集後記

○トヨタの本研究への助成が決まり、これから、またまた忙しくなります。船橋の三番ヶ瀬まつりでマスコットの実演販売をしていますので、立ち寄ってみて下さい。ひやかし、さくらも大歓迎……（馨）

○新しいワープロを買いました。色々な機能がありますが…でも使い方がむずかしくて…結局古いワープロで打つことになりました…グスン。何とか早く使いこなせるようになりたいものです。そんなわけで遅くなりました（涼）

ふ　報

本会会員の[redacted]さんは心筋梗塞のため本年９月７日急逝されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

すずがも通信　No.40　1986年10月?日発行

発行人　東　良一
事務局　鈴木裕子方
編集人　田久保晴孝
　　新妻途夫
　　東　馨子

[redacted]

行徳野鳥観察会

[redacted]